

小学校

平成 14 年 度

教育研究員研究報告書

国	語
---	---

東京都教職員研修センター

平成14年度

教育研究員名簿

低 学 年	台東区	平成小学校	西山悦子	1年
	渋谷区	本町小学校	◇ 須釜久美子	1年
	昭島市	武蔵野小学校	☆ 野澤文	1年
	西東京市	向台小学校	池上左知子	1年
	目黒区	中目黒小学校	◇ 海老江直子	2年
	足立区	千寿本町小学校	上田由紀子	2年
	葛飾区	本田小学校	中俣和子	2年
	日野市	平山小学校	坂西圭子	2年
中 学 年	練馬区	春日小学校	森田佳之	3年
	新宿区	落合第一小学校	大坂操	4年
	杉並区	済美小学校	☆ 瀧島二葉	4年
	町田市	南第一小学校	野中美幸	4年
	東久留米市	第二小学校	井口美由紀	4年
高 学 年	品川区	第二延山小学校	吉川信次	5年
	江戸川区	鹿本小学校	林美香子	5年
	青梅市	新町小学校	清水玲子	5年
	文京区	昭和小学校	☆ 勝山みどり	6年
	江東区	平久小学校	◎ 石川加子	6年
	板橋区	志村第三小学校	○ 清水洋志	6年
	三鷹市	北野小学校	堀智子	6年
	新島村	若郷小学校	中井一雄	6年

◎ 全体世話人 ○ 全体副世話人 ☆ 分科会世話人 ◇ 全体記録

担当 東京都教職員研修センター指導主事 鶴巻 景子

目 次

I 全体研究主題及び研究の概要	
1 研究主題設定の理由	2
2 研究主題に対する基本的な考え方と仮説	3
3 研究の内容	3
4 全体研究構想	4
II 各分科会の提案と実践	
◇ 低学年分科会	
1 低学年分科会の提案	6
2 低学年分科会の実践 第1学年『『そめものやさん』のえほんをつくろう』	7
資料 低学年〔書くこと〕評価規準	11
◇ 中学年分科会	
1 中学年分科会の提案	12
2 中学年分科会の実践 第4学年「おすすめします! ~読書新聞~」	13
資料 中学年〔書くこと〕評価規準	17
◇ 高学年分科会	
1 高学年分科会の提案	18
2 高学年分科会の実践 第6学年「地球に優しくなろう ~今、わたしにできること~」	19
資料 高学年〔書くこと〕評価規準	23
III 研究の成果と課題	24

< 要 約 >

本年度より新学習指導要領が実施され、国語科では「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めること」が挙げられている。自分の考えを自分の言葉で表現する態度や能力を育てることは、生涯にわたる『生きる力』を育成する上で重要である。その中でも「書くこと」は、言語により考えを整理して明確にしたり、深めたり、振り返ったりして、自己を見つめ高めることのできる大切な言語能力である。

そこで、本研究は、研究主題を「児童の意欲を高め、確かに書く力を育てる指導と評価」として、①書くことの基礎的・基本的事項の評価と指導の工夫 ②一人一人の意欲とよさや可能性を伸ばす評価と指導の工夫の2点に視点をあて、授業をとおした実践的研究を行った。具体的な研究内容としては、書くことの過程に沿った評価規準の作成、評価に基づく指導の工夫、発達段階に応じた個人内評価、自己評価や相互評価の工夫である。

I 全体研究主題及び研究の概要

全体研究主題

－児童の意欲を高め、確かに書く力を育てる指導と評価－

1 研究主題設定の理由

本年度より、完全学校週5日制の下、教育内容を厳選し、ゆとりの中で基礎的・基本的な内容の確実な習得を図り、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育成することをねらいとする新学習指導要領が実施された。また、このようなねらいを実現するための児童生徒の学習評価の在り方について、平成12年には、教育課程審議会より答申が出され、基本的な考え方として、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）及び個人内評価、さらに、指導と評価の一体化を図ることの重要性が示された。

新学習指導要領の国語科の目標では、言語の教育としての立場を一層重視し、国語を適切に表現し正確に理解する能力の育成とともに伝え合う力を高めることが示されている。これは、自分の考えを自分の言葉で積極的に表現する能力や態度、互いの立場を尊重し言語により伝え合う力の育成を重視しているのである。

この「自分の考えを自分の言葉で表現する能力」を育てる一つの言語活動として「書くこと」が挙げられる。「書くこと」は、言語により考えを整理して明確にしたり、深めたり、振り返ったりして、自己を見つめ高めることができるものである。また、友達と互いの文章を読み合うことで、互いの考えと向き合うこともできる。「書くこと」は、生涯を通じて必要なことであり、「生きる力」としての自己教育力を育てるためにも一人一人に身に付けてほしい大切な言語能力である。

しかし、児童の実態をみると、「書くことが好きではない」と答える姿が多く見られる。これは、「何を」「どのように」書いてよいのか分からないことや、自分の書いたものを自分でよいと思ったり、友達からよいと認められる経験が少ないからではないかと考える。こうした児童に「書くこと」の楽しさを味わわせ、生涯を通して豊かに書く力を育てていくためには、基礎的・基本的事項の指導とともに、児童が自らの書く力を自覚し、課題に向かって主体的に学べるような授業への改善が不可欠である。そして、児童の書くことへの意欲や課題、あるいはその児童の学びのよさや可能性を明らかにする評価とそれに基づく適切な指導は、こうした授業の改善の大きな柱であると考えられる。

そこで、本研究では、児童の「書くこと」の実態を把握し、「書くこと」の単元に応じた評価規準を明確に設定し、目標に準拠した評価としての『絶対評価の在り方』を中心に授業改善に取り組んでいく。また、児童の発達に応じ、『個人内評価の在り方』を探り指導に生かしたり、『自己評価』や『相互評価』の場や方法を位置付けた学習活動を工夫したりして、児童一人一人の意欲とよさや可能性を伸ばしていく。このような様々な評価を適切に指導に生かすことで、児童は、書くことのよさや大切さを実感し、意欲的に書くようになるとともに、生涯にわたる確かに書く力が育つのではないかと考える。

以上のことから、研究主題を上記のように設定し、本研究を進めることとした。

2 研究主題に対する基本的な考え方と仮説

研究主題の「書く意欲がある姿」「確かに書く力」について、本研究では次のようにとらえた。

(1) 「書く意欲がある姿」とは

- 伝えたい自分の思いや願いをもっている。
- 伝える相手や目的を明確に意識し、どのように書くか見通しをもっている。
- 書くことを振り返ったり、認められたりする場があり、よりよく書こうとしている。
- 書くことのよさを感じ、書き終えた充実感や伝えた喜びを味わっている。

(2) 「確かに書く力」とは

- 相手や目的、意図を考えて書く。
- 相手に伝えるために必要な事柄を取材・選材して書く。
- 文章全体の組み立てを考えて書く。
- 順序よく、中心をはっきりさせて、事実や意見を効果的に書く。
- 文章を読み返し、よいところを見付けたり、間違いを正したりする。
- 言語事項についての知識や技能を身に付け、自分の記述に生かす。

これらのことから、本研究の目指す児童像を次のように設定した。

目指す児童像

- 楽しみながら進んで書く子
- 相手や目的・意図に応じて適切に書く子
- 書くことのよさを味わえる子

この目指す児童像に近付くために、次のような研究仮説を立て、それに基づいて研究を進めることとした。

研究仮説

書く活動において、単元の評価規準を基に様々な評価法で児童の課題を明らかにし、課題に応じた指導や、よさや可能性を伸ばす指導を工夫すれば、児童の意欲を高め、確かに書く力を育てることができるであろう。

3 研究の内容

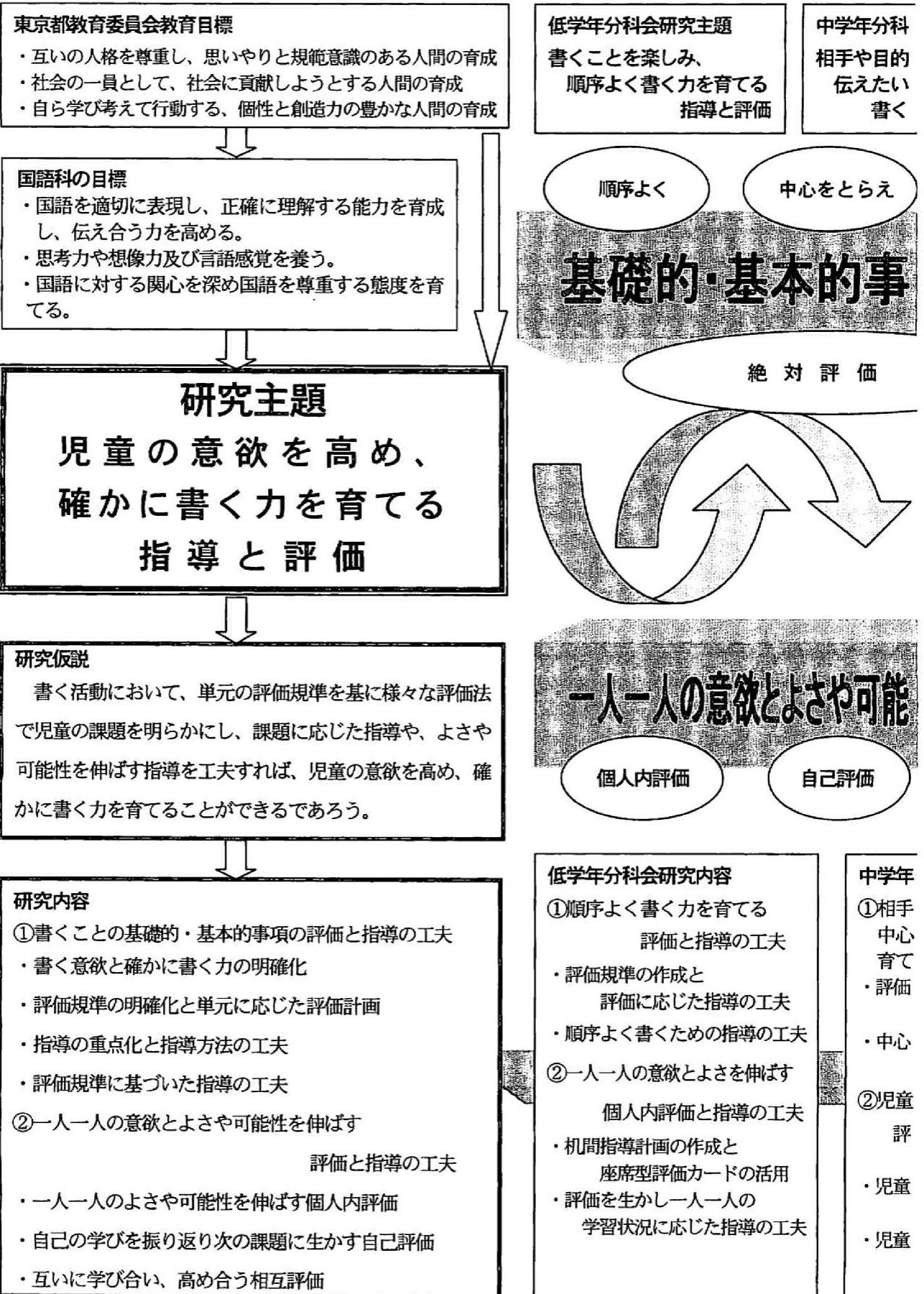
(1) 書くことの基礎的・基本的事項の評価と指導の工夫

「相手・目的・意図」「取材」「構成」「記述」「推敲」の書くことの過程に沿って評価規準を整理し、「書くことの評価規準表」を作成する。そして、その「評価規準表」を基に、単元の指導計画において各時間一観点ずつ選び、具体的な評価規準を明確に設定し、その評価規準に基づいた指導例を指導計画に位置付ける等、評価計画の作成及び児童の書く力に応じた指導の工夫を行う。

(2) 一人一人の意欲とよさや可能性を伸ばす評価と指導の工夫

「評価規準」を基に、各学年の発達段階に応じて「個人内評価」「自己評価」「相互評価」を重点的に取り上げ、一人一人の学習状況や思いを見取り、児童に自己の学びの課題やよさを自覚させるなど、一人一人の意欲とよさや可能性を伸ばす指導の工夫を行う。

4 全体研究構想



研究会研究主題
に応じて、
この中心をとらえて
力を育てる指導と評価

高学年研究主題
目的や意図に応じて、
自分の考えを効果的に
書く力を育てる指導と評価

これを書けば
いいんだ！
こう書けばい
いんだ！
書くことって
おもしろいな
あ！
もっと書く
ぞ！

こういう事も
書いてみたい
な！
こんなふうに
工夫してみよ
う！
書いてよかつ
た！
書くことって
いいなあ！

効果的に

項の評価と指導の工夫

目指す児童像

- 楽しみながら進んで書く子
- 相手や目的・意図に応じて適切に書く子
- 書くことのよさを味わえる子

性を伸ばす評価と指導の工夫

相互評価

低学年分科会 目指す児童像

- ・書くことを楽しむ子
- ・相手に分かるように、
順序よく書く子

中学年分科会 目指す児童像

- ・ 相手や目的を意識して
分かりやすく書く子
- ・ 何を一番伝えたいのか
はっきりさせて書く子

高学年分科会 目指す児童像

- ・ 目的や意図を考え、
見通しをもって書く子
- ・ よりよい表現を考え、
工夫して書く子

研究会研究内容
意識をもって、
をとらえて書く力を
育てる評価と指導の工夫
規準の作成と
評価に応じた指導の工夫
をとらえて書くための
指導の工夫
にめあてをもたせ、
力を高める
自己評価と指導の工夫
の振り返りと個に応じた
指導の工夫
のめあてに生かされる
評価の工夫

高学年分科会研究内容
①効果的に書く力を育てる
評価と指導の工夫
・ 評価規準の作成と
評価に応じた指導の工夫
・ 自分の考えを
効果的に書くための指導の工夫
②自己の書く力を見つめて
意欲を高める自己評価・相互評価
と指導の工夫
・ 自己の書く力を見つめる
自己評価の工夫
・ 書く意欲を高める相互評価の工夫

Ⅱ 各分科会の提案と実践

低学年分科会

1 低学年分科会の提案

(1) 分科会研究主題

「書くことを楽しみ、順序よく書く力を育てる指導と評価」

(2) 目指す児童像

- ・書くことを楽しむ子
- ・相手に分かるように、順序よく書く子

(3) 仮 説

相手や目的を意識し、順序よく書くことの指導と評価を意図的・計画的に行うと同時に、個に応じた適切な評価と指導を継続することによって、書くことを楽しむ態度と順序よく書く力が育つであろう。

(4) 基本的な考え方

◎「楽しんで書く」とは

- 相手や目的を意識して、進んで書こうとする。
- 伝えたいことと、書くことの見通しをもっている。
- 書いたことよさを実感している。

◎「順序よく書く」とは

- 時間的な順序に沿って、思い出すことができる。
- 時間や行動の場面に合った文章を書くことができる。
- 順序に沿って、最後まで書くことができる。

(5) 研究の内容・主題に迫るための手だて

① 順序よく書く力を育てる評価と指導の工夫

○評価規準の作成と評価に応じた指導の工夫

順序よく書くために、学習活動の様々な過程で継続的に順序を意識していくことが必要である。そこで、順序よく書くことを、書く過程に沿って分析し、評価規準を明確化し、さらに単元の指導計画に応じて具体化する。

具体化に当たっては、年間の見通しをもち、重点的に指導する事項を設けたり、評価の観点を1時間1観点に焦点化する。また、単元全体を通して、関心・意欲・態度、書く能力、言語についての知識・理解・技能の3観点を見取れるような評価計画を立てていく。評価規準は、「B」を「おおむね満足」とし、A B Cの各規準別の具体的な指導を例示し、指導・支援の工夫を行う。

○順序よく書くための指導の工夫

指導の重点については「ポイント学習」と名付け、単元の中に位置付ける。「ポイント学習」で学んだことは、児童にとって基本の形として書く活動のヒントとなり、そこでの評価を教師は診断的な評価として活用し、個別指導・支援を改善していく。

また、順序よく書く学習に適したワークシートの作成や活用方法を工夫し、児童が確かに書く力を身に付ける主体的な学習と、意欲の持続向上を支援していく。

② 一人一人の意欲とよさを伸ばす個人内評価と指導の工夫

○机間指導計画の作成と座席型評価カードの活用

単元全体を通して、個人内評価を、確実に、過重な負担なく、継続的に行うために、座席型評価カードを開発する。授業前に評価・指導のポイント、授業中の見取り、授業後の記録を一面にまとめることができ、個人内評価の継続が実現できると考える。授業の場で、適切な評価と指導ができるよう、記入の仕方を含め机間指導計画を作成し工夫していく。

○評価を生かし一人一人の学習状況に応じた指導の工夫

どの児童にも評価に基づき適切な指導・支援が行えるようにするために、あらかじめ指導に必要な言葉かけ例や、ヒントカード等を作成し、多面的に、児童のよい点や可能性、進歩の状況を認め、励ましていく計画的・継続的な指導を工夫する。

2 低学年分科会の実践

(1) 単元名 「そめものやさん」のえほんをつくろう (第1学年)

(2) 単元の目標

家の人に染め物をしたことを知らせるために、絵本の各場面の文章を順序よく楽しんで書くことができる。

(3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・家の人に知らせるために、染め物の絵本を楽しんで作ろうとしている。	・染め物をしたことを、順序よく正しく書いている。	・主語と述語の関係に気を付けて文を書いている。

(4) 研究主題に迫るための手だて

① 順序よく書く力を育てる評価と指導の工夫

○順序よく書くための評価規準の作成

(相手・目的) 家の人に染め物をしたことを知らせるために、順序を考えて絵本を作るというめあてをもっている。

(取材) 染め物したことを順序よく思い出し、場面ごとに書く材料を集めている。

(構成) 染め物の工程を考えながら、順序よく各場面を並べている。

(記述) 染め物したことを順序よく思い出し、各場面の文章を語や文の続き方に注意して、正しく書いている。

(推敲) 絵本が順序よく書けているか読み返し、間違いを正したり、よいところに気付いたりしている。

○指導の重点と「ポイント学習」及びワークシートの工夫

児童に、今後の活動の見通しをもたせ、順序を意識させるために、本単元と同じ形式の「朝顔のミニ絵本作り」を、1時間のポイント学習として行い、その学習での児童の学習状況を診断的評価として指導に役立てるようにした。

また、染め物の工程別(場面別)のワークシートは、例示するシートと児童が書くシートを併用することで順序を思い出しやすくすることができ、また、並べ替えが容易で順序の修正ができるようにした。

② 一人一人の意欲とよさを伸ばす個人内評価と指導の工夫

○机間指導計画の作成と座席型評価カードの活用

児童の多様な学習状況に応じたきめ細やかな指導をするために、効率よく確実に一人一人の学習状況を見取り、その場で適切な評価と指導をしていくことができる机間指導計画を立てた。また、継続的な個人内評価を行い、指導に生かすため、授業前・中・後の記録を一面にまとめることができる座席型評価カードを作成し活用を図った。

○評価を生かし一人一人の学習状況に応じた指導の工夫

個に応じた指導が適切にでき、どの児童も自分に合った方法で楽しんで書くことができるようにするため、児童の学習活動を予測した効果的な言葉かけ例や、2種類のカード(ヒントカード、視写カード)を用意し、指導に活用していくようにした。

(5) 学習指導計画・評価計画



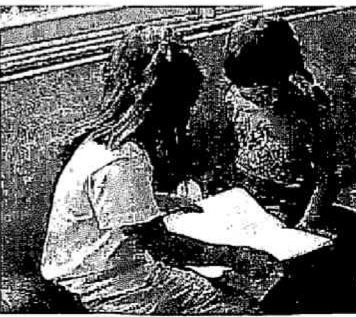
時	主な学習活動	★ 評価する学習活動	○ 指導事項	臨	★評価場面 評価規準 △評価方法	評価を生かした指導例
1	<p>★1 生活科で行ったそめものやさんの活動で、思ったことや分かったことを話し合い、「そめものやさんの絵本を作ろう」というめあてをもち、表紙を書く。</p> <p style="text-align: center;">そめものやさんのえほんをつくろう</p> <p>★2 そめものやさんの絵本のイメージがもてるように、「朝顔のミニ絵本作り」をする。</p> <p>ポイント学習（ミニ絵本作りの手順） (1) 3枚の絵を場面の順序に合わせて並べ替える。 (2) 1枚ずつ絵に合った文を考えて書く。 (3) 順序を確かめて、3枚の絵を貼り合わせる。</p>	<p>○相手・目的を明確にし、めあてをもつこと。</p> <p>○順序に気を付けて、絵に合った文を書くこと。</p> <p>○絵本の作り方を知り学習の見通しをもつこと。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>書く能力</p>	<p>★学習課題を設定する場面</p> <p>A：相手へのメッセージをつけ加えて書くこととしている。</p> <p>B：そめものをしたことを知らせるために、お家の人へ絵本を作ろうという気持ちをもちようとしている。</p> <p>△絵本表紙の分析</p> <p>★ミニ絵本を作成する場面</p> <p>A：絵本の作り方を理解し、工夫や考えを基にページのイメージをもって書いている。</p> <p>B：そめもの順序に従って絵本を作っていくことを理解し、ページのイメージをもって書いている。</p> <p>△記述過程を観察</p>	<p>A：★相手にメッセージを書いている場面を見付け褒める。</p> <p>B：☆めあてや絵本を見せたい相手が書いている児童の表紙を紹介し、意欲を高める。</p> <p>C：★生活科の学習を振り返り、誰に伝えたいかの具体例を挙げる。</p> <p>A：★出来上がったミニ絵本のよいところを認め、そめもの絵本のイメージが膨らむようにどんな絵本にしたいか具体的に発言するよう促す。</p> <p>B：★作り方の手順に従って、板書を参考に詳しく書くよう助言する。 ☆出来上がった児童には、出来上がったことを褒める。</p> <p>C：★順序を確認しながら、場面に合った文章</p>	
2	<p>1 そめもの活動で使った手順カードを利用して、したことの大きな順序を確認する。</p> <p>（染め物の手順） ①花を小さく刻む。②花を煮る。③布を浸す。④布を煮る ⑤布を媒染剤に浸す。⑥布を煮る。⑦布を取り出す。 ⑧水洗いして、干す。</p> <p>★2 花を小さく刻む場面のページ①を参考にしながら、花を煮る場面のページ②を書き、貼り合わせる。 *出来上がった児童は、花を煮ている時の自分の気持ちを吹き出しに書く。（～第4時まで同じ）</p>	<p>○したことの順序が分かること。</p> <p>○花を煮る場面を思い出しながら、したことを書くこと。</p> <p>○読みやすいように、正しく丁寧に書くこと。</p> <p>○書いた文を読み返すこと。</p>	<p>言語の知識・理解・技能</p> <p>書く能力</p>	<p>★②ページ目を記述する場面</p> <p>A：大まかな順序を理解し、したことを正しく丁寧に様子が分かるように書いている。（ぐつぐつ煮る等）</p> <p>B：花を煮る場面をよく思い出しながら、したことを2文程度で正しく書いている。</p> <p>△記述過程を観察</p>	<p>A：★様子を表す言葉を適切に使って丁寧に書いている場面を認め、全体に紹介する。</p> <p>B：★順序に沿ってできている場面を賞賛する。 ☆更に詳しく書けるように友達の記事を参考に促す。</p> <p>C：★大まかな順序が分かるように何度も工程を確認する。 ☆大まかな順序が分かるような視写できる文章を示し、正しく丁寧に書くよう促す。</p>	
3	<p>1 第2時を振り返り、よい文章の紹介を聞く。</p> <p>2 前時の学習を生かし、出来上がった①②ページと提示された⑤⑥ページ（布に媒染剤を浸す場面）を見て、③（布を浸す）④（布を煮る）場面を想起する。</p> <p>★3 したことの順序を考えて、布を浸す、布を煮る二つの場面のページ③④を書き、貼り合わせる。</p>	<p>○友だちのよい文章の紹介を聞き、よい書き方に気付くこと。</p> <p>○布を浸す、布を煮る場面を思い出しながら、順序を考え、したことや様子を書くこと。</p>	<p>書く能力</p>	<p>★③④ページを記述する場面</p> <p>A：順序を考えて、布を浸す、布を煮る場面を書き、自分の気持ちを吹き出しに書いている。</p> <p>B：布を浸す、布を煮る場面をよく思い出しながら、場面にふさわしい文を書いている。</p> <p>△記述過程を観察</p>	<p>A：★前時のいくつかの作品を紹介し、よいところを参考に促す。 ☆場面に応じて自分の気持ちを詳しく書いている文章を全体で紹介する。</p> <p>B：★場面にさらに適切な文が書けるように例示する。</p> <p>C：★場面の順序を思い出するために掲示物を参考に促す。</p>	
4	<p>1 第3時を振り返り、よい文章の紹介を聞く。</p> <p>2 前時の学習を生かし、出来上がった①②③④⑤ページと提示された⑧ページ（水洗いして、干す）場面を見て、⑥（布を煮る）⑦（布を取り出す）ページ場面を想起する。</p> <p>★3 したことの順序を考えて、布を煮る、布を取り出すページを書き、順番や内容を確かめて絵本を仕上げる。 *早く終わった児童は、友達同士で絵本を読み合う。</p>	<p>○友だちのよい文章の紹介を聞き、よい書き方に気付くこと。</p> <p>○布を煮る、布を取り出す場面を思い出しながら、順序を考えてしたことや様子を書くこと。</p> <p>○その時の気持ちを吹き出しに書くこと。</p>	<p>書く能力</p>	<p>★⑥⑦ページを記述する場面</p> <p>A：順序を考えて、布を煮る、布を取り出す場面書き、自分の気持ちを場面に応じて詳しく書いている。</p> <p>B：布を煮る、布を取り出す場面をよく思い出しながら、場面にふさわしい言葉を入れて書き、作品を仕上げている。</p> <p>△記述過程を観察</p>	<p>A：★推敲しようとする努力、姿勢や間違いが正しである箇所を褒める。 ☆場面に応じて自分の気持ちを詳しく書いている文章を全体で紹介する。</p> <p>B：★仕上がった作品のよいところを褒める。 ☆自分の気持ちを吹き出しに書くよう伝える。</p> <p>C：★作品が仕上がるように、思いつかない場合は例文を示し、視写するよう助言する。</p>	
5	<p>1 おうちの方々に染めた作品とそめものやさんの絵本を紹介する。 *保護者に感想を書いてもらう。（授業参観時）</p> <p>★2 全体の学習を振り返り、「そめものやさん」の絵本作りの感想を書く。</p>	<p>○自分が作った作品を絵や文の工夫したところを中心に読み、紹介すること。</p> <p>○書いたもののよいところに気付くこと。</p> <p>○全ての学習を振り返り感想を書くこと。</p>	<p>関心・意欲・態度</p>	<p>★活動を振り返って感想を書く場面</p> <p>A：全体を振り返り、感想を詳しく書こうとしている。</p> <p>B：活動を振り返り、感想を語ろうとしている。</p> <p>△作品分析</p>	<p>A：★工夫したことが詳しく書けるように、具体的な例を示す。 ☆学習全体を振り返り、始めと終わりの気持ちの変化を中心に書けるよう、助言する。</p> <p>B：★紹介したときの気持ちを確認し、感想を書くよう促す。 ☆活動全体を振り返ることができるよう今までの活動を確認する。</p> <p>C：★お家の人に見てもらった感想が書けるように助言する。</p>	

(6) 本時の学習 (4 / 5 時)

① 本時の目標

○ 布を煮る場面と布を取り出す場面に合った文章を順序よく書くことができる。

② 本時の展開

主な学習活動 ★評価する学習活動	○ 指導事項	★評価場面	△評価方法	評価規準	☆評価を生かした指導例												
<p>1 第3時を振り返り、場面に合った文章が書けている作品の紹介を聞く。</p> <p>2 本時のねらいを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>えほんののこりのページをかき、えほんをかんせいさせよう。</p> </div> <p>3 教師が作成した前時の最後の文章(染液に一日つけておいた布を媒染液につけるページ)と本時の最後の文章(布を水洗いして干すページ)を全員で音読する。</p> <p>★4 「もう一度染液につけて煮る」ページを書く。</p> <p>★5 「布を広げる」ページを書き、貼り合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二枚とも書けた児童は思ったことを吹き出しに書く。(2時、3時に同じ) ・順番や内容確かめて絵本を仕上げる。 ・早く終わった児童は、友達同士で本を読み合い、よいところを見付ける。 <p>6 本時の学習を振り返り、完成した自分の作品を見て感想をもつ。</p>	<p>○ 友達のよい文章の紹介を聞き、よい書き方に気付くこと。</p> <p>○ 布を煮る、布を取り出す場面を思い出し、順序を考えて書き、絵本を完成させるめあてを理解すること。</p>  <p>○ 布を煮る、布を広げる場面を思い出し、順序よく様子を書くこと。</p> <p>○ 順序を確かめながら、ページを貼り合わせて、正しい順序が分かること。</p> <p>○ 書いた文章を読み返すこと。</p> <p>○ 友達同士でお互いに読み合い感想をもつこと。</p> <p>○ 完成した自分の作品を見て感想をもつこと。</p>	<p>★ 布を煮る・布を取り出すページを書いている場面</p>	<p>△ 観察法 (座席型評価カードを用いた机間指導)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>評価規準</th> <th>☆評価を生かした指導例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A (十分満足)</td> <td>・ 順序を考えて、布を煮る、布を取り出す場面を書き出 来事の様子や自分の気持ちを 場面に応じて詳しく書いて いる。 (4文程度)</td> <td>☆ 推敲しようとする努力、姿勢や間違いが正しである箇所を褒める。 ☆ 場面に応じて自分の気持ちを詳しく書いている文章を全体に紹介する。 ☆ 仕上がった作品の出来映えを褒める。</td> </tr> <tr> <td>B (概ね満足)</td> <td>・ 順序を考えて、布を煮る場面、布を取り出す場面をよく思い出しながら、場面に合った文を書いている。 (2文程度)</td> <td>☆ 読み返すための観点を示し、どのように直すか例示する。 ☆ 自分の気持ちを吹き出しに書くよう助言する。</td> </tr> <tr> <td>C (努力を要する)</td> <td>・ Bに満たない児童</td> <td>☆ 文章が思いつかない児童のために、2種類のヒントカードを用意し、手渡す。 ☆ キーワードを見て文を作ったり、例文を視写したりするよう助言する。 ☆ 絵や前後の文章から順序を確認させる。 ☆ 絵と文が対応しているかを確認させる。</td> </tr> </tbody> </table>		評価規準	☆評価を生かした指導例	A (十分満足)	・ 順序を考えて、布を煮る、布を取り出す場面を書き出 来事の様子や自分の気持ちを 場面に応じて詳しく書いて いる。 (4文程度)	☆ 推敲しようとする努力、姿勢や間違いが正しである箇所を褒める。 ☆ 場面に応じて自分の気持ちを詳しく書いている文章を全体に紹介する。 ☆ 仕上がった作品の出来映えを褒める。	B (概ね満足)	・ 順序を考えて、布を煮る場面、布を取り出す場面をよく思い出しながら、場面に合った文を書いている。 (2文程度)	☆ 読み返すための観点を示し、どのように直すか例示する。 ☆ 自分の気持ちを吹き出しに書くよう助言する。	C (努力を要する)	・ Bに満たない児童	☆ 文章が思いつかない児童のために、2種類のヒントカードを用意し、手渡す。 ☆ キーワードを見て文を作ったり、例文を視写したりするよう助言する。 ☆ 絵や前後の文章から順序を確認させる。 ☆ 絵と文が対応しているかを確認させる。	<p>☆評価を生かした指導例</p> <p>机間指導例</p> <p>1 全員観察① (途中で立ち止まらずに、全員の様子を見る。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一枚目を書き始められたかを見る。 ・ 個別指導が必要な児童に印を付ける。 <p>2 個別指導①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 書き始められない児童へ支援する。 ☆めあての確認をさせる。☆絵を見て口頭で作文させる。 <p>3 全員観察②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ BとCに分ける視点で全員を見る。 ・ Cの児童だけ座席型評価カードに印を付ける。 ・ Bの児童に吹き出しカードを取りに行かせる。 <p>4 個別指導②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Cの児童に具体的な支援をする。 ☆書き出せない児童→ヒントカード① (キーワードが載っているもの) を渡す。 ☆全く書けない児童→ヒントカード② (視写用例文) を渡す。 ☆順序が違っている児童→前後の文章を読ませて確認させる。 ☆場面と違うことを書いている児童→絵に合う文章を意識させる。(前後の場面の絵を手がかりに) <p>(書き始められない児童に対する指導の実例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T「前のページの文を読んで考えてみましょう。」</p> <p>C1 (読んでみて)「あ、そうか。」</p> <p>T (二枚の絵を見せながら)「どちらが先でしたか。絵を見て考えましょう。」</p> <p>C2 (並べて見比べて)「あ、こっちが前だ。」</p> <p>T (視写カードを渡して)「これを写して書いてもいいです。〔 〕の中は自分で考えて書きましょう。」</p> <p>C3「はい。〔 〕の中を考えて文を書き始める。」</p> <p>T (ヒントカードを見せて)「煮ているところですね。何回目ですか。」</p> <p>C4「2回目。」(「もう一どにました。」と書き始める。)</p> </div> <p>5 全員観察③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の変容を見取る。 ・ Aの児童のよい点を褒める。 ・ AとCの児童について座席型評価カードに印を付ける。
	評価規準	☆評価を生かした指導例															
A (十分満足)	・ 順序を考えて、布を煮る、布を取り出す場面を書き出 来事の様子や自分の気持ちを 場面に応じて詳しく書いて いる。 (4文程度)	☆ 推敲しようとする努力、姿勢や間違いが正しである箇所を褒める。 ☆ 場面に応じて自分の気持ちを詳しく書いている文章を全体に紹介する。 ☆ 仕上がった作品の出来映えを褒める。															
B (概ね満足)	・ 順序を考えて、布を煮る場面、布を取り出す場面をよく思い出しながら、場面に合った文を書いている。 (2文程度)	☆ 読み返すための観点を示し、どのように直すか例示する。 ☆ 自分の気持ちを吹き出しに書くよう助言する。															
C (努力を要する)	・ Bに満たない児童	☆ 文章が思いつかない児童のために、2種類のヒントカードを用意し、手渡す。 ☆ キーワードを見て文を作ったり、例文を視写したりするよう助言する。 ☆ 絵や前後の文章から順序を確認させる。 ☆ 絵と文が対応しているかを確認させる。															
 <p><もう一度染液に布をつける・布を広げるページを書く></p>	 <p><絵本を仕上げ読み合う></p>																

(7) 授業の考察

○指導の重点化と学習の見通しをもたせるポイント学習

第一時に行ったミニ絵本作りを通して、児童一人一人が学習の見通しをもつことができた。また、このミニ絵本作りは本単元で育てたい指導のポイントを取り上げた学習としたため、教師は、児童の作ったミニ絵本を基に診断的評価（書く意欲、順序、書く力、言語の力など）を行い、次時以降の個に応じた指導に生かす机間指導計画を立てることができ、計画的な指導が可能となった。

○順序を意識させた場面別ワークシート

染め物の工程を絵に表し、場面ごとに絵を入れて場面別ワークシートを作成した。これは時間的順序を確認したり場面にあった文章を書いたりするために有効な手がかりとなり、どの児童も意欲的に取り組んでいた。また、したことや様子だけでなく、学習の進度や実態に応じて、染め物をしたときの気持ちを吹き出しカードに書くようにさせたことで、自分のペースで書き進めることができ、文章の内容も整理され、楽しんで順序よく書く力につながった。

○一人一人の指導に生きる座席型評価カード

座席型評価カードに1時間の授業で評価した内容を記録する。その記録を基にして次時の机間指導計画を立てた。各時間の目標に照らし合わせた評価規準とそれに基づく指導例を活用し、限られた時間の中でできるだけ多くの児童に個に応じた指導、支援をするのに有効であった。こうした継続的評価と指導は、一人一人の確かに書く力を伸ばすことにつながった。

○学習状況に応じた言葉かけ例やヒントカード、視写カードの活用

評価を生かした具体的な指導の工夫として、児童のつまづきを予測し、そのつまづきに即した言葉かけやヒントカードなどの手だてを作成した。指導や支援の必要な児童に対してその場で対応することにより、書く意欲が高められた。

(個別支援における言葉かけ例)

出来事を思い出させる言葉かけ
 ・マリーゴールドの花は何色でしょう？
 ・お鍋のお湯は何色になりましたか？ 等
 文を書くことを助ける言葉かけ
 ・(様子や言ったことを思い出してから) そう。~と思ったのね。そのことも絵本に書いておくと、お母さんにもよく染め物のことがわかってもらえますよ。等
 一生懸命書いていることを認める言葉かけ
 ・この書き方は、とてもよく書けていますよ。 等

(机間指導記録の一部)

第4時 本時の学習内容
 ・絵本ののこりの2ページ(もう一度煮るページ)(布を広げるページ)の場面を思い出しながら順序よく書く。
 ・順序、内容を確認して、絵本を仕上げる。

A したことや様子の順序をよく思い出しながら、場面に応じて詳しく書いている。気持ちは吹き出しによく思い出して書いている。
 B 順序を思い出しながら絵に合った文を書いている。(2文ぐらい)

視写カードを渡す		様子を詳しく	
名前 A B (C)	名前 A (B) C	名前 (A) B C	名前 A (B) C
	ヒントカード	言葉かけをする	
名前 (A) B C	名前 A B (C)	名前 A (B) C	名前 (A) B C

作品例



花を煮る場面 (第2時)



布を煮る場面 (第4時)

資料 低学年〔書くこと〕評価規準

	関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
相手・目的	○自分のしたことや気持ちなどを伝えることを楽しんでいる。	○相手や目的を考えながら書いている。 ○相手や目的を考えながら、事柄を集めたり、順序を考えたりしている。	
取材	○相手や目的を考えながら、事柄を集めて書こうとしている。	○したことや気付いたこと、思ったこと、感動や疑問などを言葉にして書いている。 ○書こうとする題材（知らせたいこと・書きたいこと）に必要な事柄を集めている。	
構成	○相手や目的を考えながら、簡単な組立ての文章を書こうとしている。	○自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている。 ○文には始めと終わりがあることを意識して組立てを考えている。 ○事柄の順序を意識して組立てを考えている。（時間的順序・行動の順序など）	○文の中における主語と述語の関係を理解している。
記述	○順序を考えて書こうとしている。 ○相手を意識して、文字を丁寧に書こうとしている。	○語と語を続けて簡単な文を書いている。 ○語と語、文と文の続き方に注意して書いている。 ○事柄の順序に気を付けて書いている。（時間的順序・行動の順序など）	○小学校学習指導要領別表の学年別漢字配当表に、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。（第1学年は、第1学年に配当された漢字についてのみ） ○句読点の打ち方やかぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で正しく使っている。 ○主語と述語を照応させた文を書いている。 ○平仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。 ○長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。 ○文末表現に気を付けている。（丁寧な言葉と普通の言葉・話し言葉と書き言葉）
推敲	○文章を読み返そうとしている。 ○文章のよさに目を向けようとしている。	○書いた文を声に出して読み返し、間違いなどに注意している。 ○書いたもののよいところに気付いている。	○語や文を正しく丁寧に書き正しく直している。

※表の中から、書くことの過程に沿って一時間一観点を選び、具体的に単元の指導計画に位置付ける。

（参考文献） ・「小学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省）

・「評価規準の作成、評価規準の工夫改善のための参考資料（小学校・中学校―評価規準、評価方法等の研究開発（報告）―）

（国立教育政策研究所教育課程研究センター）

・「平成13年度教育研究員研究報告書（小学校 国語）」の「主題に迫る『書くこと』の基礎的・基本的な力」（東京都教職員研修センター）

中学年分科会

1 中学年分科会の提案

(1) 分科会研究主題

「相手や目的に応じて、伝えたいことを中心をとらえて書く力を育てる指導と評価」

(2) 目指す児童像

- ・相手や目的を意識して分かりやすく書く子
- ・何を一番伝えたいのかはっきりさせて書く子

(3) 仮 説

相手や目的を明確にして書くことの学習を通して、適切な評価と指導の工夫をし、児童が自己の書いたものを見つめ次のめあてをもつことにより、書く意欲が高まり、相手や目的に応じて伝えたいことを中心をとらえて書く力が育つであろう。

(4) 基本的な考え方

◎「相手や目的に応じて書く」とは

○伝える相手を意識すること

- ・伝える相手によって、適切な言葉使いや書き表し方を選ぶことができる。
- ・相手の立場に立った書き方ができる。
- ・書いて伝えることのよさに気付くことができる。

○伝えたいことを明確に意識すること

- ・書く目的に合った表現方法を選ぶことができる。
- ・書くことを中心をはっきりさせてから書き始めることができる。

◎「伝えたいことを中心をとらえて書く」とは

○集めた情報から、重要な部分を選択して活用できる。

○文章の大まかな組み立てを考え、段落と段落の続き方に注意することができる。

○書くことを中心を正確に伝えるためによりよい表現を選んだり工夫したりすることができる。

(5) 研究の内容・主題に迫るための手だて

① 相手意識をもって、中心をとらえて書く力を育てる評価と指導の工夫

○評価規準の作成と評価に応じた指導の工夫

中心をとらえて書く力を伸ばし個に応じた評価と指導ができるように、「関心・意欲・態度」「書く能力」「言語における知識・理解・技能」の3観点について、単元に応じた具体的な評価規準を設定し、評価計画を立てる。教師はその評価規準に照らして場面ごとの児童の学習達成状況を見取り、個に応じた指導の工夫を行う。

○中心をとらえて書くための指導の工夫

大事なことをメモに取りながら聞く、題名を付けて文章を書く活動など、焦点化を図った指導の工夫を継続的に行うとともに書くことの基本を押さえる学習シートを開発し、中心をとらえて書く主体的な学習活動への指導の工夫を行う。

② 児童にめあてをもたせ、評価力を高める自己評価と指導の工夫

○児童の振り返りと個に応じた指導の工夫

児童がめあてに沿って自己評価できるよう学習の手引きや振り返りカードの開発と活用を行う。教師は児童の作品やカードと児童の自己評価を合わせて、その児童のよさを生かす指導の工夫を行う。

○児童のめあてに生かされる評価の工夫

児童が客観的に自己の作品をチェックできる観点を明確にし、それに沿って自分で評価する視点を養っていく。そして、児童自身がその視点を次の学習のめあての設定に生かす指導の工夫を行う。

2 中学年分科会の実践

(1) 単元名 「おすすめします！～読書新聞～」 (第4学年)

(2) 単元の目標

自分の好きな作品や本を友達に紹介するために、中心になる記事を書いたり、見出しや割り付けを工夫したりして読書新聞を書き、互いに発表会や掲示で交流することができる。

(3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・新聞の書き方を工夫して、自分の好きな本や作品を友達に分かりやすく紹介しようとしている。	・書きたいことの中心が明確になるように、見出しを付けたり中心となる事柄や段落の続き方に気を付けて書いたりしている。	・よい見出しの付け方や文と文のつながり、文の構成について理解している。

(4) 研究主題に迫るための手だて

① 相手意識をもって中心をとらえて書く力を育てる評価と指導の工夫

○中心をとらえて書くための評価規準の作成

〈相手・目的〉友達に自分の紹介したい本の内容がよく伝わる新聞を作るというめあてをもつ。

〈取材〉書きたい記事に必要な事柄についてメモを作っている。

〈構成〉紹介したいことの中心がはっきりするように割り付けをしている。

〈記述〉紹介したいことの中心がはっきりするように文のつながりや、段落の続き方に気を付けて書いている。

〈推敲〉自分の紹介したい本の内容が相手によく伝わるか読み返して確かめている。

○中心をとらえて書くための指導の工夫

学習シートを活用し、新聞作りと関連させて以下を重点的に指導する。

・見出しの付け方 ・書き出しの工夫 ・記事の種類に応じた表現方法の工夫

② 児童にめあてをもたせ、評価力を高める自己評価と指導の工夫

○児童の振り返りと個に応じた指導の工夫

児童が、自分の書いた作品と学習活動への取り組みについて、ここをがんばった、またはこうした方がよかった、次はこうしてみよう、といった次の活動にもつなげていく振り返りができるようにした。そのために、振り返りカードは、児童が学習活動全体をいつでも見わたせ、見通しをもてるよう一枚のカードにし、そのカードを活用して教師の絶対評価に基づく児童の学習状況と児童一人一人の課題や伸びに合わせた支援を行うようにした。

○児童のめあてに生かされる評価の工夫

児童が書くことの各過程において自分でめあて作りをし、自分の書いたものを客観的に評価することができるよう、『新聞作り 達人への道』という見直しカードを作成した。このカードにおける具体的な評価の観点の明示は、単元を見通し、児童が自らめあてを設定する観点となり、自分で作品を評価する観点として活用を図った。

(5) 学習指導計画・評価計画

時	主な学習活動 ★評価する学習活動	○指導事項	誌	★評価場面 評価規準 △評価方法	評価を生かした指導例
1	目的・意図 1 モデルとなる読書新聞を読み、そのよさについて考え、自分達も読書新聞を書くことを知る。 ★2 自分が紹介する本を選ぶ。	○相手意識や目的意識を明確にもつこと。 ○新聞の特色やよさを理解すること。	関心・意欲・態度	★紹介する作品や本、相手を決める場面 A:好きな理由や作品のよさを伝えるには、どのような記事が必要か具体的なイメージをもち、考え始めている。 B:読書新聞のよさが分かり、友達に紹介する本を決めている。 △振り返りカードの分析	A:読書感想文集や、読書紹介、本の帯などを読み、読書新聞の参考になるものを探すことを勧める。 B:モデルの新聞を読み、好きなわけや作品のよさを伝えるにはどんな記事が適しているか考えるよう助言する。 C:読書新聞を書いて友達に紹介することを再確認し、一緒に本を選ぶ。
2	取材・構成 1 好きなわけやよさ・おもしろさ、作者や作品の情報を伝えるためには、どんな記事を載せたらよいか考える。 ★2 作品や本を読みながら、書きたい記事に必要なメモを作る。 3 メモカードを並べかえながら、だいたい割り付けを決める。	○書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。 ○伝えたい記事の中心が明確に分かるよう、割り付けを考慮すること。	書く能力	★記事の内容を決めメモカードへ記入している場面 A:メモカードに、あらすじ・人物紹介・好きな理由・クイズなどの内容メモを簡条書きで書いている。 B:メモカードに、書きたい記事の項目(あらすじ・人物紹介・好きな理由など)を書いている。 △本とメモカードとの関連の分析	A:メモカードを基に、割り付けに進むよう助言する。 B:あらすじや人物紹介や好きな理由などのメモに書かれた内容について、付け加えるとよいことを助言する。 C:モデルの新聞を読んでいてよいと思った記事は何か考え、自分で書く記事を決めるよう助言する。
3	記述・推敲 ★1 メモカードをもとに、トップ記事の見出しを付ける。 2 書き出しの工夫、表現方法の工夫について話し合う。	○読み手を引きつけ、内容の中心を的確に表した見出しを付けること。	書く能力	★見出しを考えている場面 A:体言止めや疑問形、倒置法などを使い、表現方法を工夫して読み手を引き付ける見出しを作っている。 B:書きたいことの中心が分かる短い言葉で、見出しを作っている。 △見出しとメモとの関連の分析	A:記事ごとにどの手法がより効果的か、比較検討するよう助言する。 B:体言止め、疑問形、倒置法などの工夫を知らせる。 C:書きたいことの中心が分かる言葉を探して見出しを作るよう助言する。
4 (本時)	★1 トップ記事の下書きをする。 ★2 見直しカード(達人への道)の観点に沿って自分で読み返し、(書き直しの記号を使って)書き加えたり書き直したりする。	○書くこととする事の中心を明確にしなが、段落と段落との続き方に注意して書くこと。 ○書いたものを読み返し、文章や文字の間違いなどを正したり、より適切な言葉に直したりすること。	書く能力	★記事の下書きをしている場面。 A:段落相互の関係を考えながら、中心を詳しくするなど、整った文章を書いている。 B:メモカードを基に、書きたいことの中心をはっきりさせ、段落を意識しながら書いている。 △記述の過程の観察 ★推敲している場面 A:記述や表記に関する学習事項を、記述中にも常に意識しながら書いている。 B:よりよいものに仕上げようと、文章や文字を直したり、割り付けを工夫しようとしている。 △推敲の過程の観察 △書いた記事の分析	A:書いたもののよさを認め、工夫した文章の組み立てにも挑戦するよう助言する。 B:段落を意識させ、事柄ごとのまとまりを意識することや、書き出しの工夫をすることを助言する。 C:書きたいことを再確認させ、メモを基に一緒に整理しながら文章化する。
5 6	★3 トップ記事の清書をする。	○まちがいを直し、丁寧に、よりよい新聞を完成すること。	言語の知識・理解	★清書をしている場面 A:適切な言葉を使っているとともに、割り付け線、文字の大きさや色、文字飾り、絵などを工夫し見やすく丁寧に書いている。 B:読み手を意識していいいに正しく書いている。 △記述の過程の観察及び作品の分析	A:全体のモデルとして、他の児童の参考になるよう紹介する。 B:書き方のよい所を認め、割り付け線、文字の大きさや色、絵などを工夫するよう助言する。 C:読み手のことを考えて丁寧に書くよう助言する。
7	4 必要に応じて下書きをしながら、二つ目の記事、三つ目の記事を書き、新聞を書き上げる。		技能		
8	伝え合い ★1 クラス内で作品の交流会をし、よい点を見つけてメッセージカードで伝える。 2 廊下や図書室などに掲示する。	○自分の書いたものや友達のものや友達の書いたもののよさに気付くこと。	関心・意欲・態度	★交流会をしている場面 A:書くことのねらいに沿ったよさに気付いている。 B:友達の書いたものをよく読み、自分や友達のよさに気付いている。 △メッセージカードの内容分析	A:よさを認めるとともに、次の自分の書く活動に生かすよう助言する。 B:書くことのねらいに沿って、自分や友達の書いたもののよさに気付くよう助言する。 C:よい点を一緒に見付ける。

資料 中学年〔書くこと〕評価規準

	関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
相手・目的	○相手のことを考えながら、自分の考えが伝わるように書こうとしている。 ○目的に応じて適切に書こうとしている。	○相手意識や目的意識を明確にもち、相手や目的に応じて適切に書いている。	
取材	○相手や目的に応じて、書く事柄の選択をしようとしている。	○書く必要のある事柄を収集している。 ○書く必要のある事柄かどうか考え、書く順序や軽重を考えて選んでいる。	○箇条書きなど、メモにふさわしい書き方を理解して使っている。
構成	○相手や目的に応じて、段落相互の関係を工夫しようとしている。	○事柄ごとのまとまりを意識して、区切りを考えている。 ○書きたいことの中心が伝わるように、段落相互の関係を考えている。 ○伝えたい事柄の中心が明確になるよう構成の工夫をしている。	○文章全体における段落の役割を理解している。
記述	○相手や目的に応じて書こうとするものの中心を明確にしながら、書こうとしている。 ○自分の考えや感想を膨らませながら書こうとしている。	○書こうとするものの中心を明確にしながら書いている。 ○段落と段落の続き方に注意して書いている。 ○事実を正しく分かりやすく書いている。 ○事実を基に自分の考えや感想を書いている。 ○自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書いている。	○小学校学習指導要領別表の学年別漢字配当表に当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。 ○句読点を適切に打ち、段落の始めや会話の部分など必要な箇所は行を改めて書いている。 ○表現するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解している。 ○文字の大きさや配列に注意して書いている。 ○相手に分かりやすい語句を使って書いている。 ○文の構成を理解して書いている。 ・主語と述語、修飾と被修飾 ○文と文、段落と段落のつながりを考えて、指示語、接続語を使っている。 ○文章の敬体と常体との違いに注意しながら書いている。 ・敬体と常体、現在形と過去形、伝聞の書き方
推敲	○相手や目的に応じて、書き方のよいところを見付けようとしている。	○自分の書いた文章を読み返して間違いなどを正したり、より適切な表現に直したりしている。 ○自ら書いたもののよさに気付いている。	○言葉の使い方が適切であるかどうかに関心を持ち、文や文章を直している。

※表の中から、書くことの過程に沿って一時間一観点を選び、具体的に単元の指導計画に位置付ける。

<p>(参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小学校学習指導要領解説 国語編」(文部科学省) ・「評価規準の作成、評価規準の工夫改善のための参考資料(小学校・中学校—評価規準、評価方法等の研究開発(報告)一)」(国立教育政策研究所教育課程研究センター) ・「平成13年度教育研究員研究報告書(小学校国語)の「主題に迫る『書くこと』の基礎的・基本的な力」(東京都教職員研修センター)

高学年分科会

1 高学年分科会の提案

(1) 分科会研究主題

「目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書く力を育てる指導と評価」

(2) 目指す児童像

- ・目的や意図を考え、見通しをもって書く子
- ・よりよい表現を考え、工夫して書く子

(3) 仮 説

書く活動において、評価規準を明確化・具体化し、児童の書く力を見取って個に応じた指導を工夫したり、自己評価・相互評価を生かした学習活動を工夫したりすれば、目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書く力を育てることができるであろう。

(4) 基本的な考え方

◎「目的や意図に応じて効果的に書く」とは

- 書くことの過程（取材・構成・記述など）の見通しがもてる。
- 主題、相手、目的、場面を意識して、より適切な表現になるように考えて書く。
- 自分の考えを表現できた成就感や相手に分かってもらえた満足感を味わい、書いてよかったと思える。

(5) 研究の内容・主題に迫る手だて

① 効果的に書く力を育てる評価と指導の工夫

○評価規準の作成と評価に応じた指導の工夫

効果的に書く力を育てるための基礎的・基本的事項を基に、書くことの過程における評価規準を明確化し、単元に応じた評価規準、1単位時間ごとの評価規準を設定し、評価計画を作成する。その際に、評価規準を1単位時間1観点に絞り込むことで指導内容を精選し、具体化、焦点化していく。さらに、評価規準を児童に分かりやすい言葉で示し、学習のめあてとする。この評価規準（ABC）に応じた指導例を作成し、一人一人を確実に見取り、個に応じた指導の工夫を行う。

○自分の考えを効果的に書くための指導の工夫

単元の中に指導の重点である「ポイント学習」を位置付けてサンプル文を提示し、児童が具体的な意見文のイメージや見通しをもって書くことができるようにする。また、取材の重要性や文章の構成についても、ワークシートの活用など、指導の工夫を行う。

② 自己の書く力を見つめて意欲を高める自己評価・相互評価と指導の工夫

○自己の書く力を見つめる自己評価の工夫

振り返りカードと学習計画表を一体化し、児童が書くことへの見通しをもって学習を進めていけるようにする。また、学習活動の中に自己評価を位置付け、書く力がどこまで到達しているか自分なりに判断し、自己の課題に気付くことができるようにする。そして、これらの振り返りや自己評価から個々の学習状況や児童の思い、書くことの課題を教師が見取り、個に応じた指導を行う。

○書く意欲を高める相互評価の工夫

相互評価で、友達に自分の書いたもののよさを認めてもらったり、自分の書いた文章が確かに伝わったかを確認したりすることで、書こうとする意欲が高まると考える。相互評価が効果的に行えるよう、相互評価の方法の工夫、場の設定、グルーピングの工夫、評価の観点の明確な提示の工夫を行う。

2 高学年分科会の実践

(1) 単元名 「地球に優しくなろう ～今、わたしにできること～」 一意見文を書く一

(第6学年)

(2) 単元の目標

地球環境のためにできることを考え、取材したことを基にして自分の考えを意見文にまとめることができる。

(3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・環境について自分たちができることを家の人に伝えるために、意見文を書こうとしている。	・考えがよく伝わるような文章構成を工夫している。 ・根拠としての事実を基にして自分の考えを効果的に述べている。	・文と文、段落と段落の関係をつかみ、的確に指示語や接続語を使っている。 ・考えがより明確に伝わる語句、事柄にふさわしい語句を選択している。

(4) 研究主題に迫るための手だて

① 効果的に書く力を育てる評価と指導の工夫

○効果的な意見文を書くための評価規準の作成

〈目的・意図〉環境問題の話し合いから自分の課題を見付け、意見文を書くというめあてをもっている。

〈取材〉考えの根拠となる材料や必要な情報を集めている。

〈構成〉段落と文章全体との関係をとらえ、筋道を立てて文章の構成を考えている。

〈記述〉事象と感想、意見などを区別し、相互の関係が分かるように書いている。

〈推敲〉文章を読み手の立場から読み直し、よりよくしている。

○効果的な意見文を書くための指導の工夫

意見文の内容、書きぶり、分量などを知り、意見文を書くことへの具体的な見通しをもつため、身近な環境を題材とした意見文のサンプル文を開発して、単元の導入や「ポイント学習」で活用するよう位置付けた。また、下書き構成シートを作成し、意見文の構成を理解すると同時に、作文の原稿として活用できるように工夫をした。

② 自己の書く力を見つめて意欲を高める自己・相互評価と指導の工夫

○自己の書く力を見つめる自己評価の工夫

各時間の学習のねらいを児童が明確にもち取り組むことと同時に1時間の学習を振り返り、次の学習に生かすことができるような自己評価（振り返りカード）の工夫を行った。この自己評価カードは学習計画表と一体化することで児童が意見文の完成までの見通しがもてるとともに、常に教師が単元を通じた児童の学習状況を把握できる工夫を行った。

○書く意欲を高める相互評価の工夫

感想を交流し、お互いのよさを認め合うことで意欲を高めると同時に、明確な観点をもって読み合うことで、アドバイスを修正に生かそう、よりよく書こうとする意欲を持続させることができるよう相互評価を単元に位置付けた。また、相互評価が効果的に行えるよう付箋紙を用いたり、グルーピングや場の工夫も行った。

(5) 学習指導計画・評価計画


時	主な学習活動 ★評価する学習活動	○指導事項	観点	★評価場面 評価規準 △評価方法	評価を生かした指導例
1	<p>1 現在の環境問題について想起し、今自分にできることがないかグループで話し合う。</p> <p>2 身の回りの環境を守るためのリサイクルや、資源保護について調べ、意見文を書き、家の人に発表することをを知る。</p> <p>★3 教材文（サンプル文）を読み自分が取り組むことや調査することを考え発表する。</p>	○相手意識・目的意識を明確にもつこと。	関心・意欲・態度	<p>★児童が自分の取り組むことや制作することを考え発表する場面</p> <p>A：環境問題の話し合いから身近な環境を振り返り、自分の取り組むことを具体的に考え、発表している。</p> <p>B：環境問題の話し合いから、自分の取り組むことや調査することを選んでいく。</p> <p>△題材発表の観察、題材のメモの分析</p>	<p>A：テーマに取り上げたことを褒め、自分にできること考え、取材の方法を具体的に考えるよう助言する。</p> <p>B：書きたいテーマを確認し、取材の方法を具体的に考えるよう助言する。</p> <p>C：話し合いを想起させる。できそうなものが何か相談しながら取り組むものを決めるよう助言する。</p>
2	<p>1 自分で取り組む内容や調査することを決め、発表会を開くまでの学習計画を立てる。</p> <p>★2 取材方法や調査方法を具体的に考え調査活動の準備をする。</p>	○考えの根拠となる材料を様々な方法で集めること。	書く能力	<p>★取材方法や調査方法を具体的に考えている場面</p> <p>A：取材や調査の方法が適切であり、それを具体的に取材メモシートに書いている。</p> <p>B：取材や調査の方法のたいたい取材メモシートに書いている。</p> <p>△取材メモシート作成の観察</p>	<p>A：考え出した調査方法を全体の前で褒めることで、今後の活動への意欲を高めるとともに、結果を予想するよう助言する。</p> <p>B：取材や調査が可能かどうか取り組む内容をより具体的に考えるよう助言する。</p> <p>C：取材や調査方法をいくつか紹介し、その中から選ばせるように支援する。</p>
	<p>1 自分なりの方法で取材や調査をする。家の人に聞く。</p> <p>・調査（実験）してみる。</p> <p>・インターネット、図書、社会科の教科書、新聞などから情報収集する。</p>		書く能力	<p>★児童が取材を終え提出した取材メモシート</p> <p>A：考えの根拠となる材料を様々な方法で集めて、身近な環境を守るための自分の取り組みについても取材メモシートにまとめている。</p> <p>B：考えの根拠となる材料を様々な方法で集め、取材メモシートにまとめている。</p> <p>△取材メモシートの分析</p>	<p>A：身近な環境を守るために取り組んだことを褒め、自分の考えの根拠になっているか確かめるよう助言する。</p> <p>B：様々な方法で取材したことを褒め、身近な環境を守るための自分の取り組みについて考えるよう助言する。</p> <p>C：取材メモシートにまとめられない原因を個別に聞き、取材が続けられるよう具体的な方法を助言する。</p>
3	<p>1 調べてきたことを整理する。</p> <p>★2 調べてきたことをまとめ、発見したことや思ったことを取材メモシートに書き足す。</p> <p>3 自分が使いたいと思った情報（記録）を選んでおく。</p> <p>4 自分の考えをまとめる。</p>	<p>○目的や意図に応じて、必要のある事柄を選び整理すること。</p> <p>○事実と考えを区別して書くこと。</p>	書く能力	<p>★取材や調査してきたことをまとめる場面</p> <p>A：意見文を書くために必要な事柄を選び、その内容を根拠として自分の考えをまとめている。</p> <p>B：意見文を書くために必要な事柄を選び、その内容についてまとめている。</p> <p>△取材メモシートの分析</p>	<p>A：選んだ事柄が、自分の考えの根拠となっているか確かめるよう助言する。</p> <p>B：調査や取材から分かったことや考えたことについてもまとめていくよう助言する。</p> <p>C：何を一番伝えたいのかを尋ね、そのために必要な事柄を一つ一つ一緒に確認していく。</p>
4	<p>1 サンプル文を読む。</p> <p>★2 意見文の書き方について話し合う</p> <p>3 意見文のポイントについてまとめる。</p> <p><ポイント学習></p>	○サンプル文から意見文の書き方を理解すること。	書く能力	<p>★意見文（サンプル文）の文章構成について話し合う場面</p> <p>A：サンプル文から意見文の書き方や構成を理解し、自分の作文ではどのようにしているか考えている。</p> <p>B：サンプル文から意見文の書き方や構成を理解している。</p> <p>△話し合いの観察、ポイントをまとめたシートの分析</p>	<p>A：多面的な見方ができるように違う立場の意見に対して考えをより深めていくよう助言する。</p> <p>B：自分の作文のイメージがもてるように、サンプル文と取材メモシートを照らし合わせて考えるよう助言する。</p> <p>C：取材メモシートがどの部分に当たるのか一緒に考える。</p>
5	<p>1 自分の課題について自分の一番伝えたい考えが伝わるように文章構成を考え、下書き構成シートにまとめる。</p> <p>・順番を考えて切り離れた取材メモシートを並べる。</p> <p>★2 つながりやを考え、言葉や文を付け足す。</p>	○自分の考えを明確に表現するため、メモを生かしながら文章全体の組み立てを考慮すること	書く能力	<p>★文章全体の組み立てや段落ごとのつながりや言葉や文章を付け足している場面</p> <p>A：自分の考えがよく伝わるよう文章全体の組み立てや段落ごとのつながりを工夫し、下書き構成シートにまとめている。</p> <p>B：自分の考えが伝わるよう文章全体の組み立てを考え、下書き構成シートにまとめている。</p> <p>△下書き構成シート作成過程の観察</p>	<p>A：段落ごとのつながりの工夫を全体で紹介し、褒める。</p> <p>B：出来上がった下書き構成シートをもう一度読み直すよう声をかけ意見を効果的に伝える構成や内容を意識させる。</p> <p>C：意見文の構成を確かめながら、一緒に文章全体の組み立てをまとめていく。</p>
6	<p>1 伝えたいことが伝わるか、互いに下書き構成シートを読み合い、確かめ合う。（相互評価）</p> <p>★2 友達のアドバイスを参考にして、自分の下書き構成シートを見直す。</p>	<p>○目的や意図に応じて、簡単に書いたり、詳しく書いたりすること。</p> <p>○事実と感想・意見を区別して書くこと。</p>	書く能力	<p>★自分の下書き構成シートを見直す場面</p> <p>A：友達のアドバイスを参考にして自分の文章を読み直し、よりよい意見文になるように書き加えたり書き直したりしている。</p> <p>B：友達のアドバイスを参考にして自分の文章を読み直し、修正する部分にサイドラインを引いている。</p> <p>△相互評価カードの分析、下書き構成シートの分析</p>	<p>A：修正箇所を見付け、書き加えたり書き直したりしていることを褒め、よりよい文章になっているか確かめるよう助言する。（事後も含む）</p> <p>B：修正箇所を見付けたことを褒め、友達の意見を基に具体的にどう直したらよいか考えるよう助言する。</p> <p>C：友達のアドバイスを読み直し、具体的な修正の文などを一緒に考える。</p>
7	<p>★1 下書き構成シートをもとに意見文を書く。</p> <p>★2 書いたものをお互いに読み合いよさを認め合ったり、よい表現を自分の意見文に生かしたりする。</p>	○読み手の立場から読み直し、よりよく書き直すこと。	言語	<p>★意見文を書く場面</p> <p>A：友達の感想やアドバイスを自分の意見文に生かし、より自分の考えが相手に伝わるよう工夫し、記述している。</p> <p>B：友達の感想やアドバイスを参考にして記述している。</p> <p>△記述・推敲過程の観察、意見文の作品分析</p>	<p>A：工夫が見られるところや表現のよいところを全体で紹介することで、自分の文章のよさに気付かせ、より意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>B：より効果的な表現になるよう接続語や文末表現にも留意するよう助言する。</p> <p>C：具体的にどう直したらよいかサンプル文にもどし具体的に支援する。</p>
8	<p>1 意見文をもとに、「地球に優しくなろう～今私にできること～」を家の人の前で発表する。</p> <p>★2 友達の意見文について感想を伝える。</p>	<p>○友達の考えの理由を聞き自分の考えと比べること。</p> <p>○理由をはっきりさせて感想を伝えること。</p>	関心・意欲・態度	<p>★児童が交流している場面</p> <p>A：友達の発表を聞き、考えを広げたり、理由をはっきりさせて感想を伝えたりする。</p> <p>B：友達の発表を聞き、よいところを見付け伝えている。</p> <p>△相互交流カードの分析</p>	<p>A：自分の考えと比べて聞き、様々な意見から、さらに考えを広げるよう促す。</p> <p>B：具体的記述内容等の理由を入れて書き方のよいところを伝えるよう助言する。</p> <p>C：思ったことを相互交流カードに書くよう声をかける。</p>

(6) 本時の学習 (6 / 8)

①本時の目標

- 友達の下書き構成シートを読み、考えが伝わるか確かめ合い、またその内容についての感想やアドバイスを伝え合う。
- 友達からもらった感想やアドバイスを参考にしながら、自分の文章を見直す。

②本時の展開

主な学習活動	★評価する学習活動	○指導事項	●留意点	★評価場面	△評価方法	評価規準	☆評価を生かした指導例
1 本時のめあてを確認する。		○本時のめあてをもつこと。		(前時の評価を生かす) - 授業前 事前に下書き構成シートを読み、一人一人のよさや課題を見取っておくことで、個に応じた指導・支援を明らかにしておく。			
	友達と感想やアドバイスを交流して、よりよい意見文にしよう			★自分の下書き構成シートを見直す場面 △相互評価カードの分析、下書き構成シートの分析			
2 友達の意見文を読む観点について考える。 ・意見が伝わるか。 ・意見の根拠が伝わるか。 ・文として整っているか。 ・文章構成がはっきりしているか。 ・感想(共感、納得、疑問など)		●意見文を読む観点について話し合い、それをまとめていくようにする。5つの観点がない場合には提示する。					
3 グループの中で交流する。 ①意見文を読む。 ②観点到に沿って考える。 ③付箋紙に感想やアドバイスを書き、相手に分かりやすいよう文章中に貼る。(相互評価)		○友達と交流する手順や方法を確認すること。					
4 もらってうれしかったメッセージや参考になったアドバイスを発表する。		○観点を基にして友達の文章のよいところや工夫した方がよいところを見付け、相手に伝えること。					
友達からのアドバイスカード例 ・取材したことを見直して、数字や様子を加えてもう少し詳しく書くといいです。 ・自分の意見がはっきりと分かるように、最後の段落をくわしく書くといいです。		●友達の発表を聞くことで、より広い視野から自分の文章を見直せるようにする。					
							
★5 友達からもらったアドバイスも参考にしながら自分の意見文を見直す。(自己評価)		○書いた文を読み合い、アドバイスをやる。 ○効果を確認めたり、工夫したりすること。 ●修正すべき内容を文章中に、赤で記入させる。 ●自己評価の観点を確認する。					
6 振り返りカードに自分の学習状況の評価と感想を記入する。 (評価の観点) ・自分の文章を見直すことができましたか。 ◎：書き直すことができた。 ○：書き直すところに気付いた。何度も読み直した。 △：あまり読み直せなかった。		●今日の学習でがんばった点を褒め、次時の学習への意欲を高める。					
				相互評価 読み合う視点 ・よさを認め合う ・よりよい文章へのアドバイスを ・分かりにくいところを教え合う 読み合う観点 ・意見が伝わるか ・意見の根拠が伝わるか ・文として整っているか ・文章構成がはっきりしているか ・感想(共感、納得、疑問など) 方法 ・大きめの付箋紙に書く ・書いたことを基に話し合う			
				自己評価(書くことの自己評価・学習状況の自己評価) 自己評価の観点 ・自分の文章を見直すことができたか 自己評価の方法 ・アドバイスを参考に自分の意見文を見直す ・振り返りカードに自分の学習状況の評価と感想を記入する			
				(次時につなげる評価と支援) - 授業後 教師の見取った評価や児童の自己評価を生かした、次時の具体的な支援 A：よりよい文に書き直しているかどうかを見取り、次時の授業の中で紹介する。 B：修正箇所が適切かどうか、また他に修正箇所がないかを把握し、どのように修正すればよいか下書き構成シートに書いておく。 C：修正箇所があるかどうかを見取り、修正箇所にはサイドラインを引き、推敲への励ましの言葉を下書き構成シートに書いておく。			

資料 高学年〔書くこと〕評価規準

	関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
目的意図	○相手や目的・意図に応じて書こうとしている。 ○見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○相手意識や目的意識・意図を明確にもち書いている。	
取材・選材	○目的や意図に応じて、文章全体を見通して材料を集めようとしている。 ○目的や意図に応じて、考えの根拠となる材料を集めようとしている。	○相手や目的・意図に応じて文章全体を見通して、書くための材料を集めている。 ○考えの根拠となる材料や必要な材料を集めている。 ○目的や意図に応じて、必要のある事柄を適切に取捨・選択、整理している。	○箇条書きなど、メモにふさわしい書き方を理解して効果的に使っている。
構成	○目的や意図に応じて、書く必要のある事柄を整理して書こうとしている。 ○目的や意図に応じて、文章全体の組立てを工夫して書こうとしている。	○全体を見通して、書く必要のある事柄を整理している。 ○段落と文章全体との関係をとらえ、筋道を立てて文章の構成を考えている。 ○自分の考えや思いを明確に表現するため、読み手の立場に立って効果的な文章全体の組立てを考えている。	○自分の考えを明確に表現するための、組立ての効果について理解し、活用している。
記述	○目的や意図に応じて、効果的な文章の種類や形態を選択して書こうとしている。 ○目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書こうとしている。	○目的に応じた書式・様式や考えが明確に表現できる文章の種類や形態を選択して書いている。 ○目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりしている。 ○事象と感想、意見などを区別し、相互の関係が分かるように書いている。 ○自分の考えや思いを客観的な事象に裏付けて書いている。	○小学校学習指導要領別表の学年別漢字配当表に、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。 ○送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。 ○表現するために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けている。 ○日常よく使われている敬語の使い方に慣れている。 ○考えや思いがより明確に伝わる語句、事柄にふさわしい語句を選択している。 ○ふりがな、注釈、文字の形、大きさ、配列などを工夫して読みやすく書いている。 ○文末表現を工夫している。 ・敬体と常体・現在形と過去形・断定と推定 ○文と文、段落と段落の関係をつかみ、的確に指示語・接続語を使っている。
推敲	○文や文章の効果を確かめ、よりよいものにしようとしている。	○効果的な表現になっている部分についてそのよさを確かめている。 ○文章を読み手の立場から読み直し、よりよくしている	○言葉の使い方が効果的であるかどうかに関心を持ち、文や文章を直している。

※表の中から書くことの過程に沿って一時間一観点を選び、具体的に単元の指導計画に位置付ける。

(参考文献)・「小学校学習指導要領解説 国語編」(文部科学省)

・ 「評価規準の作成、評価規準の工夫改善のための参考資料(小学校・中学校—評価規準、評価方法等の研究開発(報告)ー)」

(国立教育政策研究所教育課程研究センター)

・ 「平成13年度教育研究員研究報告書(小学校国語)の「主題に迫る『書くこと』の基礎的・基本的な力」(東京都教職員研修センター)

Ⅲ 研究の成果と課題

(①成果・②課題)

1 低学年分科会

- ①明確化した評価規準に基づき、指導の重点についてのポイント学習や、場面や順序を意識したワークシートを工夫することによって、児童は見通しをもって楽しんで学習に取り組む、順序よく書く力を身に付けることができた。また、実態に合わせたヒントカード、言葉かけ例、座席型評価カードを活用した机間指導を行うことにより、評価を活用した個に応じた指導・支援を、適切に行うことができた。
- ②年間を見通し系統性を意識したポイント学習を開発し、単元に位置付ける指導計画や学習活動の工夫により、さらに個に応じた指導と評価の工夫をしていく必要がある。

2 中学年分科会

- ①単元の具体的な評価規準に即した評価を行い、一人一人の課題や伸びに合った指導を工夫することにより、児童が相手・目的意識をもち、伝えたいことを中心をとらえて書くことができた。また、児童に評価の観点を示すことで、自分の書いたものを客観的に評価する力が育ち、めあてをもちながら意欲的に学習に取り組むことができた。
- ②児童が評価の観点を意識しながら書き、推敲に生かせるようになるには、「書くこと」の基本を重点的に指導する時間を意図的・計画的に位置付けることや、児童の振り返りやめあて作りなど、より有効な自己評価の工夫と活用をさらに行っていく必要がある。

3 高学年分科会

- ①評価規準を明確化し、児童の書く力に応じた指導を工夫することによって、児童の書くことへの抵抗感を減らし、書こうとする意欲を高めるとともに、目的や意図に応じて効果的に書く力を伸ばすことができた。また、自己評価カードと学習計画表を一体化することで、児童は自己の学習に見通しをもって主体的に学習を進めることができた。さらに、互いのよさを認め合う相互評価を行うことで、書く意欲を高めるとともに、自己の書いたものを改善する学び合う学習活動が開発できた。相互評価を推敲にも生かせることが分かった。
- ②一人一人のよさや可能性を伸ばすためには、絶対評価に基づいた指導とともに、より一層の自己評価力の育成とそのための手だてが必要である。また、評価に応じた指導の工夫として、さらに児童一人一人の習熟に応じた指導の工夫も考えていく必要がある。

4 全体の成果と課題

- ①明確にした評価規準を基に児童の課題を明らかにし、課題に応じた指導の工夫を行うことで、児童の確かに書く力を育てることができた。また、指導の重点化や学習材の開発により、児童自身に学習の見通しをもたせ、また、発達段階に応じた教師による個人内評価に基づいた指導や自己評価・相互評価の活用によって、児童の主体的な学習を促し、書くことの意欲を高めることができた。
- ②一人一人の意欲と確かな「書くこと」の力を一層高めていくためには、「書くこと」の系統性を意識した年間指導計画の作成や様々な単元で「書くこと」の重点指導を明確にした指導と評価の一体化の工夫をさらに行っていく必要がある。また、児童一人一人の習熟度に応じた指導や少人数指導の在り方なども考えていく必要がある。